



発行日 令和2年11月5日



No.11

「ヒヤリ・ハット」ここで気づき とめること！ ～感染症予防への意識や取組を振り返り 気を引き締めて 継続した対応を～

校長 宮 居 伝

『ハインリッヒの法則』という言葉を知られた方もあるのではないのでしょうか。これは、「ひとつの大きな事故の背後には29の軽微な事故があり、その背景には300の『ヒヤリ・ハット』（異常・危うく事故に…）が存在する。事故防止のためには『ヒヤリ・ハット』の段階で対処していくことが必要である。」というものです。

私たちは、この「ヒヤリ・ハット」に出会いつつも、各々が危険を予知し、時には、教訓として、互いに注意し合って予防し、日々の生活を送っています。

ところで、10月23日（金）の午後3時50分頃、次のような電話を学校にいただきました。

今から20分ほど前の出来事です。買い物の帰りに、県道2号線を安土方面に向かって自家用車で走っていたら、下校中の小学生の複数の子どもが、道路に向かって石を投げていました。幸いにも、走行している車にはあたりませんでしたが、もしものことがあればと心配になり連絡をしました。注意をお願いします。

まずは、この危険な行為が事故に繋がらなくてよかった。そして、お叱りの電話であったにせよ、この電話をいただいた方に感謝をしたいという思いでいっぱいでした。当日は、確かに、午後3時過ぎに子どもたちは学年下校をしていたこと、また、おそらく付近の状況から判断をし、能登川南小学校に直接、お電話をくださったことなどから、きっと、本校の子どもたちが該当しているのではないかと、さらには地域の方々からの学校への叱咤激励のひとつであると受けとめました。

この電話を受け、早速、全校放送での指導とともに、各学級でも学年の状況などを踏まえ、登下校について重ねて指導をしました。学校再開後の6月以来、高学年の子どもたちの頑張りにより、下学年の子どもたちにも気づかいをしながら地区別班での集団登校を、下校は方面別の学年下校をしています。時には、「注意をしても聞いてくれない」「注意の仕方や声かけがきつい（優しい言葉かけをしてほしい）」などの声に、何度か話し合いを持ちながらも頑張っている子どもたちです。いずれにせよ、学校だけでなく、ご家庭や地域の方々の声かけもあつての、安全面に配慮した子どもたちの登下校であると感謝しています。

子どもたちは、決められたルールを守り、そして、集団規律を大切にしながら、また、もめごとを繰り返しつつも互いに解決しながら成長しています。ちょっとした一言のかけ方、環境の作り方が、子どもたちの育ちに大きな影響を与えていきます。今回、お電話をいただいた「ヒヤリ・ハット」を通して、改めて、日々の指導の大切さ（子どもたちの生活のなかの「ヒヤリ・ハット」を見逃さない）に気づかせていただきました。

また一方で、新型コロナウイルス感染症の再拡大に向けた懸念や警鐘が報道されています。緊迫したなかでの学校再開、感染症予防の取組の徹底からスタートし5ヶ月が経った今、私たちの意識や行動を、そして周囲の状況を振り返る必要があるのではと感じています。「感染症予防について、最近の生活の中に、『ヒヤリ・ハット』はないか！」を、敏感に受け止め、「ヒヤリ・ハット」の段階で対処していくことが大切であると、気を引き締めていく時期を迎えているように思います。

繰り返しになりますが、前月の学校だよりで書かせていただきました右記のことにつきまして、気の緩みのないよう、重ねてよろしくお願いいたします。

11月を迎えました。新型コロナウイルス感染症予防とともに、インフルエンザへの予防も必要となってきました。

ますます体調管理が厳しくなってきますが、どうか、子どもたちが健康に、安全に過ごせますよう、そして、健やかに成長してくれるよう、学校生活はもちろん、家庭や地域での生活においても、引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

5年生が水環境学習の一環で「伊庭の水辺景観」を訪れました



基本的な感染症予防のうえで！

「GO TO トラベル」をはじめとした、いろいろな施策が始まりましたが、このことを受け、専門家の方々は、その実施の大前提として「基本的な感染症予防（手洗い・マスク・消毒）が行われること」との指摘をされています。

一方、様々な制限があるなか、学校で学ぶことの教育的意義を見つめ、できる限りの感染症対策を行った上で、毎日の教育活動、そして節目となる取組を進めて参りたいとも考えております。

引き続き、「日々の予防に向けた新しい生活様式の習慣化や学校・家庭での生活、健康管理の延長上に、節目となる取組（例えば校外学習や音楽集会当日など）があること」をご理解いただき、子どもたちの健康管理や励ましをよろしくお願いいたします。